



2007. 7

第42号

大学婦人協会東京支部

- ・東京支部総会報告
- ・記念講演「今、日本の家族は?…」 柏木恵子氏
- ・「水墨画教室」スタート

桜のまだ残る福岡での第50回総会では、永年の懸案事項でした名称変更の議案が、可決されました。近々「世大学女性協会」と生まれ変わることとなります。昨年10月に「名称変更に関する懇談会」を開いたことで、

東京支部長を引き受けて、早いもので、一年が過ぎました。初めてのことが多く、戸惑うことも多々ありましたが、皆様の激励、ご協力により、おかげさまで、支部委員会のメンバーも、それぞれに職務を無事に務めることができました。御礼申し上げます。



森川 淳子

支部長挨拶
「二年目を迎えるに
あたって」

皆で真摯に考え、意見を述べ、聞く機会を持つことができ、大変有益であったと思います。また、「公益社団法人」の認定を目指して、特別委員会を設置し準備が始まりました。東京支部も支部の代表として、神奈川県、茨城支部とともに委員会のメンバーとして、参加しております。本部と支部との連絡がスムーズにできるよう、協力してまいります。

支部の財政についてですが、今年度の予算では、準備金から50万円を取り崩すことにいたしました。委員会でも入金は多くなるように、出金は抑えるように努力してまいりました。しかし、会員の減少は、いかんともしがたいものがあります。支部会員皆様のお力をお借りして、定年を迎える団塊の世代の方々、子育ての一段落された方など、お一人でも多くの方がお仲間になって下さるようお誘い下さいませ。一般の方も参加しやすい講演会、見学会を計画いたします。今年は、津田ホールで全国セミナー、音楽会もあります。よろしくご協力のほどお願いいたします。

委員会のメンバー一同、楽しく活動しております。益々のご支援、ご指導をお願い申し上げます。

東京支部総会報告

書記 今村 麻子

2007年度東京支部総会は4月15日(土)、津田ホール内会議室で開催された。

支部会員数441名中、総出席者数68名、有効委任状提出者数189名で総会は成立した。

森川支部長の挨拶に続き議事に入り、2006年度事業報告、決算報告及び会計監査報告がされた。次いで2007年度事業計画案、予算案が審議承認された。新委員の紹介後議事は終了。

続いて、田中会長より通常総会の報告を兼ねた挨拶。特に「大学女性協会」への名称変更の経緯や、支部の役割の重要性の再認識について。東京支部には全国支部のリーダーとしての活動を期待するというお言葉をいただき総会は終了した。

記念講演は、文京学院大学・大学院教授、柏木恵子氏により「今、日本の家族は?」家族心理学の研究から」という演題で行われた。

現在、そしてこれから子育てをしていく人達にも是非聴いていただきたい講演であった。

2006年度(社)大学婦人協会東京支部決算報告書

2007年度予算

2006. 4. 1 ~ 2007. 3. 31

2007. 4. 1 ~ 2008. 3. 31

収入の部

(単位 円)

科 目	予算額	決算額	差 異	備 考	予算額	備 考
I 会 費 収 入	1,188,000	1,277,000	89,000	425口	1,152,000	384口
II 事業準備金利息収入	50	2,527	2,477		3,860	
III 運用金利息収入	10	254	244		500	
IV 寄 付 収 入	300,000	265,200	-34,800	バザー サークル 講演会一般参加費 他	300,000	バザー サークル 講演会一般参加費 他
V 雑 収 入	28,600	34,600	6,000	入会還付金 賛助会員還付金 発送費	38,000	入会還付金 賛助会員還付金 他
VI 調 査 研 究 費	40,000	40,000	0	中東女性交流発表 (本部より)	0	
VII 事業準備金取崩収入					500,000	
A 当期収入合計	1,556,660	1,619,581	62,921		1,994,360	
B 前期繰越金	316,703	316,703	0		307,550	
C 収入合計(A+B)	1,873,363	1,936,284	62,921		2,301,910	

支出の部

科 目	予算額	決算額	差 異	備 考	予算額	備 考
I 管 理 費	1,070,000	976,147	-93,853		1,030,000	
(1) 備 品 費	10,000	262	-9,738		10,000	
(2) 消 耗 品 費	110,000	81,008	-28,992	コピー代 用紙 他	90,000	コピー代 用紙 他
(3) 印刷製本費	50,000	57,622	7,622	封筒 他	50,000	支部のお知らせ 封筒 他
(4) 通 信 費	300,000	238,755	-61,245	支部のお知らせ ともしび 本部会報 他	280,000	支部のお知らせ ともしび 本部会報 他
(5) 交 通 費	30,000	28,500	-1,500	発送交通費補助	30,000	発送交通費補助
(6) 本部への分担金	570,000	570,000	0	本部への分担金	570,000	本部への分担金
II 運 営 費	120,000	115,712	-4,288		120,000	
(1) 総 会 費	80,000	75,217	-4,783	会場費 他	80,000	会場費 他
(2) 委 員 会 費	40,000	40,495	495		40,000	
III 事 業 費	640,000	536,875	-103,125		610,000	
(1) 一 般 事 業 費	500,000	398,805	-101,195	ともしび(2回) 講演会 寄付 他	500,000	ともしび(2回) 講演会 寄付 他
(2) 国内奨学金	100,000	100,000	0	国内奨学金寄付	100,000	国内奨学金寄付
(3) 調 査 研 究 費	40,000	38,070	-1,930	冊子代 他	10,000	準備金
IV 雑 費	10,000	0	-10,000		10,000	
V 予 備 費	10,000	0	-10,000		10,000	
D 当期支出合計	1,850,000	1,628,734	-221,266		1,780,000	
E 当期収支差額(A-D)	-293,340	-9,153	284,187		214,360	
F 次期繰越金(C-D)	23,363	307,550	284,187		521,910	

事業準備金状況：普通預金 ￥4,360,000 中央三井信託銀行新宿西口支店

運用金状況：繰越金 普通預金 ￥249,978 中央三井信託銀行新宿西口支店

現金 ￥57,572

会 計 田辺範子 浜田和子

厳正に監査致しました結果、正確に記載されており間違いないことを証明致します。

2007年4月11日

会計監査 三浦由紀子 佐々木澄子 (印省略)

〈東京支部総会記念講演〉

(07・4・14)

「今、日本の家族は？」

―家族心理学の研究から―

講師 柏木 恵子氏



問題のひとつに育児不安がある。これは諸外国にはあまり見られない日本特有の現象である。なぜ日本に多く見られるのか、先生は主たる要因を二つにまとめられた。

①仕事を持っているか、いないか
欧米の女性は育児をしながら働き続けるのが一般的である。日本では三歳までは母が常に必要といった信仰が根強い上に、夫や親からの外圧に負けて不本意ながら職を捨てるケースが多い。いざ育児をしてみると紙おむつ、ベビーフードといったほとんど手間がかからない。

大学や大学院で学んだ事を社会に還元しようという志を持って就職したのではなかったか。簡単に辞めてしまつて果たして正解であつたか、大いに悩む事になる。

自分が生きているという実感をもてなくなるといふ人もいるくらいだ。

柏木先生はおっしゃる。社会的な損失だ、「もったいない」と。

②父親と子供の関係

子育ては女という固定観念が日本にはある。育児休暇を取る夫が増えてきているとはいえまだ

まだ少数である。夫の育児への参加が無いと女性は負担を一手に引き受け、夫と妻のパートナーシップが切れることになる。

柏木先生はおっしゃる。パートナーシップの形成は家族のあり方の重要要素、夫は積極的に育児に参加すべし！

少子化の日本。子供には出来る限りのことをしてあげたい、と思うのが親心。しかし子供は自力で学ばせ達成させるのが良いのだ。価値の押し付けは体験の喜びを奪い、後に「よい子の反乱」がおきる。

以上家族のあり方の考察から、今の日本に必要なのは男の意識を変えていく事だ、とジェンダーの研究者らしいまとめをされた。

(細貝 久美子)

〈第9回守田科学研究奨励賞贈呈式〉

(07・5・12)

贈呈式は、5月12日にアルカディア市ヶ谷で行われた。受賞者は、高エネルギー加速器研究機構素粒子原子核研究所助教の近藤(市川)温子博士(原子核物理実験)と琉球大学大学院医学研究科助教の富田真理子

博士(分子腫瘍学)である。式後近藤博士の「ニュートリノ振動現象の観測によるレプトン間混合の解明」と富田博士の「ウイルス感染による発ガン機構の解明と新規治療法の開発」と題する受賞講演が非専門家に理解できる形式でなされた。近藤博士が参加されている実験はまだ計画中ではあるが、将来の核実験の女性指導者への可能性に期待が集まった。富田博士は、医師のご経験を生かした研究開発で、抗がん剤の副作用で苦しんでいる人々に朗報が期待される。当日は、近藤博士のご長女(2歳)とご家族、お二人の恩師、共同研究者、関係者、会員諸師の約50人が参加し祝福した。

(八木 江里)



〔第50回通常総会報告〕

副支部長 細田 照子

全国総会は4月7日から福岡市で開催されました。

新横浜7時10分発「のぞみ」に乗り博多着、初夏の暑さのなかタクシーで「JALリゾートシーホークホテル福岡」に向いました。

初日は臨時理事会、評議員会、支部長懇談会に続き18時30分より懇親会が開かれ、アトラクションで素晴らしい筑前琵琶を披露下さいました中村旭園さんは90歳。福岡支部若柳吉梅壽さんの祝舞もあり、各テーブルでは他支部の方々との会話に花が咲き、とても楽しい一時になりました。また博多人形、辛子明太子、銘酒、銘菓など福岡県の名産品の販売や財務委員会のバザーもあり、一層の賑わいをみせておりました。

翌日の総会には、25支部160名（東京支部からは43名）が出席し、開会の辞では田中会長から「50回を迎える意味深い総会」とのご挨拶があり、議事は例年どおり各委員会・各支部の報告などが行われました。今年には記念講演があり「人道科学—その道程と挑戦—」の演題で、喜多

悦子氏（日本赤十字九州国際看護大学学長）よりお話しいただきました。氏は初の紛争地（アフガン）への文民派遣や紛争地の現場監督等をなされており、「人道科学とは……教育・自分と自分の周囲を変える力が必要」と締めくくられました。

昼食後、新役員選考委員の承認が行われ、昨年度から持ち越されていた名称変更は、投票総数889名・賛成786名・反対95名で可決。

その後、公益社団法人認定に向けて定款の改訂案が出され、11月に行われる（全国セミナー）の案内、I F U W 総会などについて説明があり総会は無事終了となりました。



最終日には「唐津コース」「柳川・大宰府コース」のバスツアーがあり、その後それぞれの思い出と共に帰路に着きました。

福岡支部の皆様の温かいおもてなしに心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

（次期通常総会は2008年4月5日から大阪で開催予定）

〔福岡支部主催見学会〕

「唐津コースに参加して」

総会明けの4月9日、清々しい朝を迎えていそいそとバスに乗り込んだ。

海岸沿いを走り、車窓には日本三大松原の一つといわれる虹の松原など風光明媚な景色が広がる。このあたりの島から、かの金印が出土したそう、この地方は「魏志倭人伝」を中心とした古代史の宝庫だという。

歴史に詳しい福岡支部伊藤会員の講話に耳を傾けるうちに、かつて教科書で学んだことがより身近に感じられる。

やがて名護屋城博物館に着く。休館日にもかかわらず我々のために開けて待っていてくれたのは、若い学芸員の安熙敬さん。この博物館には

佐賀県日韓交流センターが開設されていて、韓国籍の安さんが採用されたとか。流暢な日本語で名護屋城の復元模型を説明してくださる。

名護屋城は秀吉の朝鮮出兵の前線基地。秀吉は大名を集結させて陣頭指揮をするかたわら茶の湯を愉しんでいたという。秀吉の死後城は取り



中央が安熙敬さん

壊されて長らく歴史から消えていたのが、一幅の絵図が出てきたことから研究が進んだという興味深い話をされた。

それにしても、この秀吉のとなでもない野望を若い安さんがどう受け留めているのか気になったが、「これは韓国にとっては不幸な出来事では

たが、このほかにも日韓にはさまざまな興味深い交流の歴史があります。」と言って、あくまでもにこやかにあったのが印象深かった。

次に向かったのは、唐津つ子の血を湧かすという「唐津くんち」の曳山展示場。ユニークな形の曳山が並ぶ。

昼食は眺めの良い唐津シーサイドホテルで捕りたての烏賊づくしのお料理をいただき、福岡支部の皆様のお心づくしのおもてなしに心から感謝した。

(山崎 邦子)

〈福岡支部主催見学会〉

「柳川・大宰府コースに参加して」

満開の桜の花が、はらはらと散る好天気に恵まれ、水郷柳川へと朝早くホテルを出発。総勢、65名。福岡支部の方が4名ずつ2台のバスに分乗してお世話してくださる。

下百町の乗り場から4隻の船で、ゆったりと掘割の水路を巡った。折しも、10日はど前、「飛ばまし、今」というテレビドラマが放映され、船頭さんたちは、活気に満ちて案内してくれた。ドラマの裏話。主人公が船に飛び降りた橋。柳川ゆかりの人々

の碑が並び立つ岸辺は、桃や藤の花などが木々の緑にはえて美しい。



船から降りてすぐ近くの北原白秋の生家と白秋記念館を訪れた。生家の薄暗い奥の間に、柳川まりや、さげもんが華やかに飾られていた。

記念館は、柳川市立歴史民俗資料館として、一階は、水郷柳川の地勢、風土を説明する展示品やレリーフが古代から柳川城などの歴史を分かりやすく伝えている。二階は、明治、大正、昭和と人々に親しまれた白秋の、青春時代から多くの文人との交流に恵まれた壮年期まで、初版本も含めて多くの詩集、歌集、雑誌を見ることができ、今回の総会に参加し

た大きな副産物となった。

昼食をとった「御花」は、旧柳川藩主・立花公が明治43年に建てた住居で、名前は花畑の地に由来している。正面の門と迎賓館は西洋風で、裏にまわると、伝統的な日本家屋と庭園が見事な典型的な和洋併置式である。

水郷柳川は掘割が、川かという疑問は、「水の構図」という写真集を手にとつて解けた。矢部川の支流が城下町を巡って沖の端まで続き、市街地、城内まで縦横に分岐していた。

大宰府天満宮は、時間がなくて、文字通りの駆け足参拝。大宰府政庁跡もバスの窓から眺めるだけだったが、福岡支部の方々に感謝しつつ、筑紫平野に別れを告げた。

(福田 文子)

〈神奈川支部・東京支部共催〉

講演会のご案内

昨年度守田科学研究奨励賞受賞者である松田知子博士による講演会が神奈川支部との共催により、横浜みなとみらいで開かれます。

地球環境の保全と科学の発展について、ご研究の成果をお話くださる予定です。

(講演要旨)

地球環境を守りつつ持続的に科学を進展させることは非常に重要であり、そのため京都議定書でも求められるように二酸化炭素の排出量の削減は必須である。とくに、医薬品製造においては、製品に対する廃棄物の割合が多く改善する必要がある。そこで本研究では、廃棄物をできるだけ出さない有機化合物の合成法の開発を目的としている。合成反応の触媒としては、通常は、有機金属化合物が用いられることが多いが、本研究では、*“再生可能な資源”*である酵素(アルコール脱水素酵素、リパーゼ、脱炭酸酵素)を用いた。また、溶媒としても、二酸化炭素を有効利用するために、二酸化炭素を高圧にすることにより得られる、超臨界二酸化炭素を用い、有機溶媒を使用しない合成法の開発を行った。本講演では、これらの超臨界二酸化炭素中での酵素反応の研究成果を述べる。

どうぞ足をお運びください。みなと横浜の風が皆様をお待ちしています。

日時・7月21日(土)午後2時

会場・みなとみらい21クリンセンター4F
横浜市市民活動支援センター
〇四五―二三三―二六六六

〈東京支部講演会〉

(07・2・28)

「ビジネススマンが見た中国」

—これからの日本と—

中国の関係は?」

講師 倉垣 卓氏

日本の学校教育では、近現代中国を充分に学ぶ機会がなく、隣国でありながら、社会主義の閉ざされた国として中国は



近くて遠い存在。理解を深めるために、この国について語り合うことも少なかったと思う。

ところが、2008年の「北京五輪」が決定して以来、様々なメディアが伝える中国は、建設ラッシュ、市街地の近代化、とてつもない富裕層の出現とその生活振り。その変革は目を見張るばかり。その急速な発展にともなう数々の公害、水不足、地球温暖化へ与える影響など、日本

にとっても身近な大問題が見えてきている。私たちが日々手にする衣食品も中国製に席巻されている。

今の中国に注目。より正確に知りたい、と考えていたこの頃、タイムリーな講演会が開催された。拝聴。講師の倉垣卓氏は三菱電機㈱の社員として長く海外業務で活躍された。

1997〜2004年迄、香港、北京総代表を務められた中国通。「日頃、中国進出を目論む企業戦士を相手にしているのが、今日は勝手が違います」と話が始まった。社会主義国でありながら資本主義化が加速している様子、一党支配で国家権力が強いこの国での庶民の無力さ、政府幹部と民間業者の癒着振り、日常的なワイロの横行。建設ラッシュの陰で違法な立退きを強制される住民、国有地を理由に土地収用で追われた多数農民の貧困。発展と共に拡がる格差問題。30年前から施行されたひとりっ子政策の近況。多民族の集合体である中国の人たちの習慣、考え方の違い。それに付き合う方法など、現地を駆けめぐって得られた経験の中から数々のエピソードは通常のメディアからでは知ることの出来ない多岐多彩さで興味がつきなかつた。今後は、隣国中国についての視野

を拡げねばと思っている。

(菅澤 紗知子)

〈東京支部主催見学会〉

(07・5・28)

皇居見学会とパレスホテルでの昼食

皇居見学会は、新緑の美しい五月末に開催されました。

見学会に先立ち、パレスホテル一〇階のラウンジで特製サンドイッチとお茶の昼食をいただきました。上空からの眺望を楽しんでから、地上での見学会に臨むという立体構成になっている、心憎いばかりの好企画と感激しました。

桔梗門から入場した私たちJAUWのメンバー四五名は、窓明館で多数の見学者と一緒に、参観に当たっての説明や注意を受けました。ここには、菊の御紋章入りの皇居限定グッズを扱っている売店が併設されています。

窓明館での説明が終わるといよいよ戸外での見学会ツアーです。他の見学者二・三百人とともに、ぞろぞろと解説の係官の後に続いて、富士見櫓、宮内庁庁舎、宮殿、正門鉄橋(二重橋)などを見学して回りました。一

般参賀の行われる宮殿東庭や、新内閣発足時に記念撮影が行われる宮殿北車寄せには、見学者の興味が集中しました。二・二キロ、一時間強の行程は、かなり広範囲のツアーとの印象を受けましたが、案内図で確認すると皇居の敷地のほんの一部で、改めて皇居の広大さを実感しました。

意外だったのは、山下通り、乾通りといった名称のついた公道があり、そこには交番も、三〇キロ規制の交通標識もあったことです。

私たちの参加した一般参観は言ってみればウォーキングツアーです。それだけに、当日が数日前のような雨天や真夏日でなく、爽やかな絶好の見学会日よりだったことには、天にも感謝したい気持ちでした。

(鈴川 佳子)



私たちのサークルに 入りませんか？

New! 「水墨画」

三浦 由紀子

テレビから流れてくるメロディ・
♪オソスギルコトハナイイ♪に「ホ
ントホント」と同調し、これをこの
まま冠したくなるような新しいサー
クルが始動しました。

初回の

水墨画教
室に集っ
たのは、

筆にも墨
にも縁遠
かった初

心者ばか
り。日高

絹紅講師

のご紹介、水墨画についてのお話、

その歴史などを伺っただけでもその

奥の深さが推し量られて、素晴らし

いことの始まる期待感にワクワクす

る思いで、墨を磨り始めました。

濃い墨、薄墨の加減の仕方、書道
とは異なる筆の持ち方、調え方など、
お手本を参考に、詳しく説明くださ



います。生徒達はおそろおそろ半紙
の上に筆を下ろし「竹」の画の習作
(?)に取り組み、二時間はあっとい
う間に過ぎてしまいました。お手本
(講師作)のストックと伸びる竹の姿と
はだいぶ様子が違うのでき映えなが
ら、水墨画の世界を垣間見た思いの
面々はご機嫌でした。

温かな余韻に包まれての帰途、こ
んなことを思っていました。『想像以
上の実力者で人柄も素敵な先生。ア
シスタントの心配りが行き届いてい
て良かった。いつか発表会をしよう
位の目標を持った方が良かな。』

ちなみに、今後もアシストしてく
ださるのは森川東京支部長、日高講
師のお弟子さんです。講師は、国際
書画連盟の常任理事、公募展審査員、
文化センターの講師他数多く指導に
あたる一方、国内展、海外展(オラ
ンダ、中国、スイス、イタリア他)
で大活躍の実力者です。こんな出会
いを楽しめるのもJAUW会員のメ
リットなのですね。



墨で描いたタンポポ

今年度からの新委員

「どうぞよろしく」

先輩会員の活動を通して、様々な
分野から発信される情報を取得し、
一緒に学ばせていただきたいと思います
と思っています。よろしくご指導の
程お願いいたします。

玉澤 淑子

各係からのメッセージ

◆会員係

会員入退会、住所の変更等、名簿
の管理が主な仕事です。『ともしび』
や講演会のご案内その他の大切なお
知らせが確実に届きますように、転
居なさった時は速やかにご連絡くだ
さい。よろしくお願いいたします。

最近では会員数減少の傾向です。お
仲間が沢山増えて会員係りは大忙し
である事を願いつつ今年もがんば
ります。

(細貝 久美子・鈴川 佳子)

◆講座・見学係

本年度は、四月に柏木恵子氏、六
月に神野直彦氏の講演会が成功裏に
終了し、七月は神奈川支部との共催
で松田知子氏、九月は清水真砂子氏

に講演をお願いしてあります。見学
会は五月の皇居が大好評でしたの
で、再度十月を予定しています。

皆様のご参加を係一同お待ち致し
ております。

(三浦 洋子)

◆バザー係

バザーは皆様のご協力とご支援に
支えられて成り立っております。

その収益は東京支部の活動資金の
一部となり、国内奨学生基金の支援
にも繋がっております。新年会、支
部総会、各種講演会、支部例会等々、
機会ある毎にその場をお借りして地
道に楽しく活動しております。

皆様に喜んでいただけるよう心が
けておりますので、ご提案、アイデ
イをお待ちしております。

(岩田 良子)

◆「ともしび」係

「ともしび」は東京支部の活動をご
報告するために三月と七月の年二回
発行しています。支部総会、留学生
支援、女性研究者支援などの活動を
中心に多分野にわたる講演会や見学
会などの記事を記載しています。こ
れからも会員の皆様よりご意見、ご
感想をお寄せいただき、より充実し
た紙面作りをめざしていきます。

(加来 美智子)

事業報告・予定

- 4・7 JAUW第50回通常総会
8 於・福岡
- 4・14 東京支部総会
記念講演「今、日本の家族は？―家族心理学の研究から―」講師 柏木恵子氏
- 5・12 守田科学研究奨励賞贈呈式
見学会「皇居見学とパレスホテルでの昼食」
- 5・28 見学会「皇居見学とパレスホテルでの昼食」
- 6・20 講演会「人間回復の経済学」
講師 神野直彦氏
- 7・1 「ともしび」第42号発行
- 7・21 講演会「神奈川支部と共催」
「環境にやさしい酵素による有用物質の合成法の開発」講師 松田知子氏
- 9・26 講演会
講師 清水真砂子氏
- 10 見学会「皇居見学とパレスホテルでの昼食Ⅱ」
・JAUW事務所会議室
- 11・22 国内奨学金支援コンサート
於・津田ホール
- 11・23 JAUW全国セミナー
於・津田塾会本館
- 12 講演会
第7回自然科学講演会（科学研究奨励委員会と共催）

1 新春のつどい・国内奨学金贈呈式

2 講演会

3・1 「ともしび」第43号発行
以後の事業は追ってお知らせします。

サークル紹介

★英語講座

・第一・第三金曜日
午前10時～12時

・大久保地域センター3階
講師・松本節也元法政大学教授

「さし絵入り英国史」を講読中。
講師による詳細な訳註、ヒアリング用のテープ、参考資料をもとに輪読しています。

・連絡先・中山正子
(☎〇四五―五四一―二四八二)

・連絡先・中山正子
(☎〇四五―五四一―二四八二)

★楽しい俳句会

・第三水曜日 午後一時半～三時半
・JAUW事務所会議室

・講師・柴崎富子会員
柴崎先生の熱心な指導のもと楽しく俳句を作っています。

・連絡先・小池朋子
(☎〇四五―九〇二―九七三〇)

・連絡先・森川淳子
(☎〇四五―五八三―三四三〇)

・連絡先・森川淳子
(☎〇四五―五八三―三四三〇)

★源氏物語を読む会 (I)

・第三・第四水曜日
午前10時半～12時半

・津田塾大学同窓会・会議室
講師・坂上栄美子会員

・宇治十帖「総角」を読んでいます。
・連絡先・平田宏子
(☎〇四七―四三二―一五七三)

★源氏物語を読む会 (II)

・第二・三・四火曜日
午前10時～12時

・津田塾大学同窓会・会議室
講師・坂上栄美子会員

・宇治十帖に入りました。宇治十帖からお読みになりたい方、入会をお待ちしております。

・連絡先・中山律子
(☎〇三三―三三六―四六二八)

・連絡先・中山律子
(☎〇三三―三三六―四六二八)

★水墨画教室

・第二木曜日 午後一時半～三時半
・JAUW事務所会議室

・講師・日高絹子(絹紅)会員
五月から始まりました。初心者歓迎

・連絡先・森川淳子
(☎〇四五―五八三―三四三〇)

・連絡先・森川淳子
(☎〇四五―五八三―三四三〇)

・連絡先・森川淳子
(☎〇四五―五八三―三四三〇)

★フラワーデザインのサークルからのお知らせ

このたび諸般の事情により、廃部することになりました。今までご協力いただきました関係諸師にお礼申し上げますと共に、ここに謹んでお知らせ申し上げます。

山崎邦子

◆会費納入のお願い

会費未納の方は、早めにお振り込み下さい。

◆住所変更などのご連絡は事務所までお願い致します。

◆未使用のプリペイドカード、書き損じのはがき、切手(使用済み・未使用とも)など事務所までお送りください。

りください。

会員増加へのご協力をお願いします

東京支部の会員が減少しております。ご家族やご友人への勧誘を是非お願いします。

＜編集後記＞

今年の夏は猛暑という予想ですが、皆様どうぞお元気にお過ごし下さい。いつもながらのご協力心よりお礼を申し上げます。

ともしび 四二号 発行日 二〇〇七年七月一日

発行 社団法人大学婦人協会東京支部 編集 ともしび係

〒107-8331 新宿区左門町十一番六・一〇二

Tel 〇三三―三三六―四六二八 印刷 タナカ印刷株式会社
Fax 〇三三―三三六―二八八九